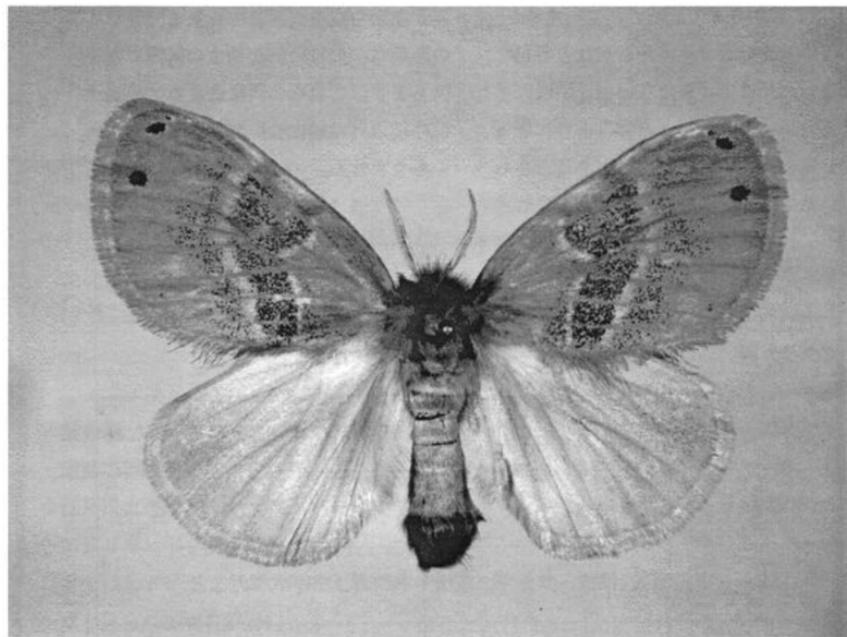


市川自然博物館

4・5月号 （通巻第55号） だより

いち
かわの  I. 身近な毒のある蛾



△身近な毒のある蛾のひとつで、毒毛に触れるとかゆみを起こす「ドクガ」。翅の色はオスもメスも鮮やかな黄色で、メスだけが毒毛を持っています。写真はメス。

いちかわの蛾 I. 身近な毒のある蛾

蛾 — 昆虫の中で蝶と同じ鱗翅目に属している蛾は、蝶の何倍もの種類が知られていますが、見た目の翅の色や不快な印象が強いことなどから蝶に比べて地味な存在です。今年度の特集では、市内に生息している蛾の中からとくに話題性のある蛾を選んで、特徴や生態などを紹介していきます。第1回は、「身近な毒のある蛾」です。

●蛾の中で毒があるのは少数派

世界中には約11万4千種の蛾が、日本には、約75科5千種余りの蛾がいます。

市川市にはこのうちの約11%にあたる564種の蛾が今まで記録されています。

「蛾」というとその姿を見たり想像したりしただけで「きたない」「不快だ」あるいは「毒がある」というように思ってしまう人がいますが、毒があるとされているのは一部の少数の種に過ぎません。

さらに、毒を持つとされる蛾でも毒を持っている時期は限られています。カレハガ科が幼虫とサナギの時期に、ドクガ科が卵から成虫（メスのみ）まですべての時期に、残りの科が幼虫の時期に毒を持ちます。これらの科に含まれている一部の種以外の蛾については、毒はまったくありません。

毒を持つ蛾の科名	毒を持つ時期	代表的な毒を持つ種類
マダラガ科	幼虫	タケノホソクロバなど
イラガ科	幼虫	イラガ、クロシタアオイラガなど
カレハガ科	幼虫、サナギ	マツカレハ、タケカレハなど
ドクガ科	卵、幼虫、サナギ、成虫	ドクガ、チャドクガなど
ヒトリガ科	幼虫	ヤネホソバ、ツマキホソバなど

毒を持つ蛾の科名とそれを持つ時期及びその代表的な種類

●毒のある蛾の症状には3型ある

蛾の毒成分については、「たん白質説」「多糖類説」「ヒスタミン説」といった諸説があります。

つまり、現在のところ確実な成分については解明されていないのですが、毒毛に触れた時及びその後の症状は、3型に分けられ科によって決まっています。

1. かゆみ型（ドクガ科）

- ・幼虫に触れると、ヒリヒリとし、激しいかゆみやかぶれ、発疹などが起きます。
- ・幼虫の毒毛は、抜け落ちやすいため、幼虫に触れなくても食草の周辺や幼虫が脱皮した脱皮殻にも毒毛がついていて被害にあう。

2. 激痛型（イラガ、ヒトリガ科）

- ・幼虫に触れると電気にでも打たれたようにビリビリと激しい痛みがある。しかし、この痛みは数時間で消える。
- ・かゆみ型と異なり幼虫に触れなければ被害にあわない。

3. 中間型（マダラガ、カレハガ科）

- ・幼虫に触れると最初に激しい痛みがあり、後にかゆみや発疹が起きます。
- ・激痛型と同じく幼虫に触れなければ被害にあわない。

●身近にいる毒のある蛾

3型ある毒のある蛾の中には、私たちの身近にいて被害を及ぼす種類があり、ここでその種類を紹介します。

サザンカやツバキといったツバキ科植物の庭木にときどき、頭が黄褐色で体が暗褐色の毛虫が集団で葉を食べているのを見かけることがあります。この毛虫が図1に示した、かゆみ型の毒を持つ「チャドクガ」です。

チャドクガは、近似種であるドクガが成虫も幼虫も年1回発生するのと異なり、夏と秋の年2回成虫も幼虫も発生します。

チャドクガの幼虫の毒毛は、後に述べる2種と異なり非常に抜け落ちやすく、幼虫に触れなくても発生している食草の周辺に落ちている毒毛により同じように被害にあいます。

図1：チャドクガの成虫、幼虫の特徴



幼虫：頭の色 黄褐色。
体の色 暗褐色。
大きさ 25.0mm（終齢幼虫）



成虫：翅の色 オスは茶褐色か濃褐色、メスは黄褐色。
大きさ オス 24.0～26.0mm
メス 27.0～35.0mm

激痛型の毒を持っている蛾として身近なのはイラガです。

秋の9月～10月頃に公園や民家のサクラやカキなどの木の葉の裏側で図2のような肉角（別名：肉質突起）という毒刺（毒毛に相当するもの）が生えている背中に褐色の模様がある毛虫を見つけることができます。

ただし、幼虫の背中に生えている肉角そのものは簡単に抜け落ちることがないため、幼虫に触れなければ被害にあいませんし、激しい痛みも数時間で消えてしまいます。

図2：イラガの幼虫



頭：普通、体の中に隠れていて見えない。

体の色：黄緑色に褐色紋。

大きさ：24.0mm（終齢幼虫）。

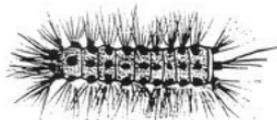
中間型の毒を持つ蛾として身近なのは図3の「タケノホソクロバ」です。

タケノホソクロバは、庭や公園などのササやタケの葉を食べ、5～7月と8～9月の年2回発生します。

タケノホソクロバの幼虫は、時に大発生して生えているササやタケが全滅することもあり、このような時に被害にあうことがあります。

タケノホソクロバは、中間型のため、幼虫に触れた時に激しい痛みがあり、後にかゆみが起こりますが、幼虫に触れなければ被害はありません。

図3：タケノホソクロバの幼虫



頭の色：黄褐色。体の色：橙褐色。

大きさ：18.0mm（終齢幼虫）。

●毒のある蛾の駆除、毒毛に触れたら

毒のある蛾を駆除するには、集団でいるために多くの個体を一度に退治できることから幼虫の時の駆除が最適です。

毒毛の大きさは、身近な毒のある蛾の場合、毒毛1本がわずか0.05～0.2mmという非常に微小な長さの種類が大部分のため人の目では見ることができません。

このため、毒毛や肉角に触れた部分をこすった場合にはこれらがより深く皮膚に食い込みさらに症状が悪くなるため、毒毛や肉角に触れた時は、その部分をこ

すらずにセロテープを貼り付けて毒毛を取るか流水で毒毛を洗い流して下さい。

もし、かゆみや発疹などがひどい場合は、医師に見てもらう必要があります。

私たち人間にとって厄介な毒のある蛾ですが、一方では他の小動物のエサの一部として利用されていると考えられることを考えると、駆除することを考えるよりもその毒のある蛾をよく知ることが大切です。



街かど自然探訪

おじやします!

ひがしすがの

東菅野・三角橋付近 真間川の流れ

東菅野と宮久保の境を流れる水路は、浜川大柏川と呼ばれていますが、もともとは真間川の上流のひとつでした。明治の頃までの流れは、現在の三角橋付近から西に向かい、国分川と合流し、江戸川に流れ込むのがメインのルートでした。ところが大正時代に行われた耕地整理の時に、東京湾に直接向かうように新たに水路が整備され、三角橋付近から南東へ向かう流れに変わりました。つまり、この橋付近の真間川の流れは、本来の流れの方向とは逆なのです。



RDB レッドデータブック

掲載種紹介



ノウルシ



分類 種子植物 トウダイグサ科
ランク 絶滅危惧 II

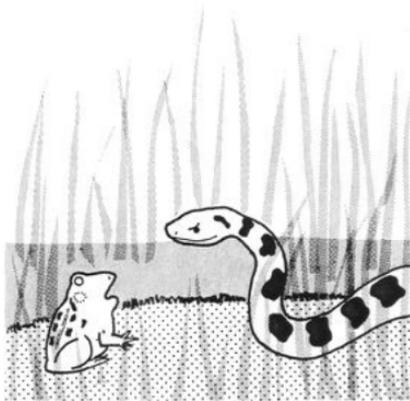
河川敷の湿地などに群生する植物で、市内では国府台3丁目、坂川の旧河口付近にだけ生育しています。早春の3月、坂川の土手を黄色に染め上げる光景は見事なもので、まさに春到来!といった感じですよ。

もともと、市内ではここだけで見られました。土砂投棄の影響で一時群落が小さくなったことがありましたが、近年は回復傾向にあります。ここは、江戸川全体を見ても、唯一の自生地と思われる。

へびとカエル

昭和20年代の後半頃までは、現在の本北方から北側は田んぼでおおわれていました。そこには、魚、ドジョウ、カエル（トウキョウダルマガエル）などがたくさんいました。

6、7月頃になると、この田んぼによくヤマカガシがいました。このヤマカガシは、田んぼに出てくると、近くにいるカエルをねらうのです。ところがカエルも注意しているので、近くになると水の中に飛び込み、泥にもぐりこんでしまいます。しかし、気がつくのがおそく、近づいて正面からにらまれると、なぜか動けなくなり、ヤマカガシの餌食になって



しまうものもいました。この頃は、こんな光景もよく見ることがありました。

(元博物館指導員 鎗田安之 記)

ただいま

ホームページ発信中!

Let's access!!

[<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>]

自然博物館では、昨年9月15日にインターネットのホームページを開設し、さまざまな情報を発信しています。

現在、次のような情報を提供いたしております。ぜひご利用ください。

- 施設ガイド** 自然博物館までの交通案内と館内の常設展示のご案内があります。
- フィールドノート** 学芸員が観察した自然の記録を毎週ご紹介する「自然観察週報」と柏井研究講座で参加者の皆さんが観察された記録をご紹介する「柏井研究講座NEWS」を掲載しています。「自然観察週報」は、情報を毎週更新していますので、季節の観察の参考にもお役にたつはずです。
- 行事案内** 当館が、市内各地で開催する自然観察会や講座などについての最新の情報をご紹介しています。
- 市川の野生生物** ホームページならではの「電子図鑑」として、学芸員が撮影した多くの写真を掲載しました。植物や動物などテーマ別に100点あります。
- 博物館だより** 『博物館だより』の最新号とバックナンバーの特集記事や連載が、ご覧いただけます。ホームページならではのカラー写真も豊富です。
- 出版案内** これまでに自然博物館で発行した出版物類のご紹介です。

わたしの
観察 ノート
 No.37

◆自然観察園より

- ・降り積もった雪の上にノウサギとイタチの足跡を確認しました(1/21)。
- ・ハンノキが一部開花しました(2/5)。

須藤 治 (自然博物館)

- ・前夜に降った雨の中、ニホンアカガエルが産卵しました。自然観察園全体で50個ほどの卵塊が見られました(2/8)。

金子謙一 (自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・アトリ 8羽が地面に落ちたハンノキの実を食べていました。ルリビタキ♂ 1羽も観察しました(1/24)。

藪 忠さん (北方在住)

◆国府台より

- ・フクロウの声を深夜に聞きました。2/14にはメスのギャーという声が、2/17、18には、ギャーという声の他にブーホッホーという声も聞こえました。

秋元久枝さん (国府台在住)

- ・雪の朝、タヌキを千葉商科大学の東側道路で目撃しました(2/15)。

◆江戸川より

- ・アメリカヒドリ♂ 1羽を見ました。ここではヒドリガモが多い時には1千羽ほど見られます(12/20)。
- ・カシラダカを見かけました(1/17 10羽

以上が採餌、1/18 15羽ほどの群れ)。

- ・アカゲラが河川敷の上を低空で飛んでいました(2/7)。
- ・ノスリがカラスの群れに追われていました。逃げきれず、河川敷の草地に姿を隠しました(2/14)。

◆じゅん菜池公園より

- ・ヤマシギが池を低空で横切って国府台方面へ飛び去りました(1/17)。
- ・カシラダカ 1羽(1/18)。

◆堀之内貝塚公園より

- ・ビンズイ 3羽を目撃しました(1/24)。
- ・フクロウが常緑低木樹にとまっていた。モズのモビングで気がつきました。また、アカゲラ♀ 1羽も林内を飛び回っていました(2/14)。

◆小塚山市民の森より

- ・ビンズイ 3羽を目撃しました(1/24)。
- ・アオゲラ♀ 1羽を目撃しました(1/25)。
- ・カシラダカの記録です。

(1/25 3羽、2/11 3羽、2/14 1羽)。

以上、国府台、江戸川、じゅん菜池公園、堀之内貝塚公園、小塚山市民の森の観察記録 根本貴久さん (菅野在住)

◎関東地方には何度も春の雪が降りました。(1/8-9、1/12、1/15、2/10、2/15、3/1、3/5)



8・9月の行事案内



自然観察会

- ・親子向けコース…親子で楽しく身近な自然に親しみます。申込み先着10組。
(小さなお子さん連れての参加もどうぞ)
- ・一般向けコース…身近な自然をわかりやすく解説します。申込み先着20名。

テーマ	月日	コース名	時間	場所	受付開始日
昆虫の観察①	8月8日(土)	親子コース	午前9時30分	大町周辺	7月15日～
	8月9日(日)	一般コース			
秋の河原	9月12日(土)	親子コース	午前11時30分	国府台 坂川周辺	8月15日～
	9月13日(日)	一般コース			

ホタルを学ぼう

自然観察園に生息するヘイケボタルの生態や生息環境などについて学習します。
室内での学習が中心です。野外観察もあります。

◎日時 7月31日(金) 8月1日(土)・2日(日) 午後6時～8時
各日とも内容は同じです。ご都合のよろしい日にどうぞ

◎場所 自然博物館 会議室

◎定員 各回先着20名(受付は7月15日消印分より)

虫の声を聴こう

ウマオイ、クツワムシなど、自然観察園で秋に鳴く虫の声を聴く機会を設けます。

◎日時 9月20日(日) 午後6時～8時

◎場所 自然観察園

◎定員 先着30名(受付は9月1日消印分より)

申込み方法

各行事とも往復ハガキに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号・返信のあて先(ホタルを学ぼうは参加希望日を忘れずに!)を書いて、受付開始日(消印)以降に自然博物館までお申込みください。

申込みのいない

夏休み行事

直接会場にお越しください。

写真でみる市川の野生生物

博物館職員が撮影した市内の野生生物の写真を展示します。

◎期間 7月19日(土)～8月30日(日)

◎会場 自然博物館 特別展示室

名前をしらべる会

あなたが作った、植物・貝・岩石・昆虫などの標本に、専門の先生が名前をつけてくれます。受付順におこないますので、お待ち頂く場合があります。

◎日にち 8月23日(日)

◎受付時間 午前10時～11時30分

午後1時～3時30分

◎会場 市民会館(八幡神社となり)

京成線京成八幡駅より徒歩3分

JR線八幡駅北口より徒歩8分

市立市川自然博物館だより
第10巻 1号 (通巻第55号)
発行日/平成10年7月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町 284番地
☎ 047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>